

# 油彩自画像制作 —自己を見つめる—

千葉県立我孫子高等学校 芸術科 美術 都築 花代

## 1. この授業でつけたい力（題材の目標）

- ・自身の内面をみつめ、普段見ている自分の顔を通して、自己の性格や考えを表現することができる能力。
- ・他者の作品から、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取ることができる能力。
- ・油彩絵の具の特性を理解し、主題に活かすことができるとともに、その美しさを味わうことができる能力。

## 2. 展開（合計 14時間）

展開	主な内容	時間数
導入	①課題についての理解 ・評価について ・制作スケジュール確認 ・油彩道具の確認 ②自画像について ・様々な画家による自画像の鑑賞 ・自分をモチーフに描くことの意味を学ぶ	1時間
構想	①作品の方向性の決定 ・目指す画面の主となる色を決める。※少なくとも3色選ぶ →自分のイメージカラーを参考に考える。【ワークシート】 ②地塗りをする ・ワークシートで行った活動を参考にキャンバスに地塗りをする。 →最低でも3色の色味を入れ、キャンバス上に自由に構成する。 ※ここでの色味がそのまま背景色の土台となっていく。 ③構図取りをする ・鏡を見ながら画面にどのように入れるか構図を考える。 →同時にポーズを考える。顔の向き、視線の方向、視点の変化により、与える印象の違いを想像しながら、構想する。	3時間
制作	①形取り ・大まかに形をとっていく。(単色) →特に画面への入り方、顔の大きさ、肩の位置などに注意する。 →目鼻などの細かい形は、書き込むより位置に注意する。	2時間
	②色をのせる ・『肌』『髪』『服』の3つのエリアに分けて色をのせていく。 →『肌』の色は、地塗りが暗めの色であれば、肌の明るいところから塗り始め、地塗りが明るめの色であれば、肌の影になっているところから塗り始める。 →『髪』の色は毛の流れを意識した筆の動かし方を意識させる。 また、地塗りで使った色を少しずつ組み込むことで全体の統一感をもたせる。 →『服』の色は、襟・しわの形をよく観察し、陰影をつけていく。 『髪』と同様、地塗りの色を影の部分に活かすようにする。	4時間
	③描きこみ ・目鼻等の顔の描きこみに入る →概念的に描かず、しっかり鏡を見て観察して描く。 ※陥りやすい表現を具体的に指摘し、人間の顔のパーツの構造にも触れながら、丁寧に説明する。	3時間
鑑賞	①渡り廊下への展示 ・学年全員分の作品を、校舎の渡り廊下に展示し、自分の作品・他の気に入った作品について、レポートを提出。	1時間